

# 活用例



予測データの活用が  
様々な分野で始まっています。

## 清涼飲料 業界

- 自動販売機の商品入れ替えなど、作業に1週間以上要する業務への対策
- 物流拠点における在庫の事前調整による配送の最適化・コスト削減

## 家電流通 業界

- 倉庫から店舗への配送量の調整、在庫管理や店舗スタッフ等の最適な配置
- 顧客向けのWEBチラシやメールマガジン等の発信、店頭での販売促進

## アパレル・ ファッション業界

- 倉庫から店舗への配送量の調整
- 店頭の商品陳列量増減のタイミング見極め、消費者への販売促進

○民間気象会社では、個別のコンサルティングも行っていますので、ご利用ください。

○気象庁ホームページから得られない、専門的なデータや大量のデータは、一般財団法人 気象業務支援センターをご利用ください。

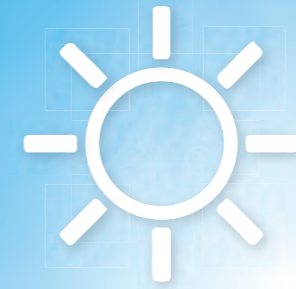


## チェックポイント

農業や水産業では、極端な天候の監視や作物の  
生育予測等で予測データの活用が広がっています

| 対象   | 活用方法              | 具体的な情報例                    |
|------|-------------------|----------------------------|
| 水 稲  | 冷害・高温<br>障害対策     | 栽培管理のためのメッシュ情報(東北農業研究センター) |
|      | 収穫期予測             | 営農支援情報(山形県等)               |
| 小 麦  | 開花日予測<br>(赤カビ病対策) | 発育ステージ予測(西日本農業研究センター)      |
| 果 樹  | 開花日予測             | モモの開花予想(山梨県)               |
| 病害虫  | 発生予察              | 防除適期予測(沖縄県)                |
| 農業全般 | データ               | メッシュ農業気象データシステム(農研機構)      |
| 水 産  | 養殖情報              | ワカメ養殖通報(宮城県)               |


[https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/riyou\\_catalog.html](https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/riyou_catalog.html)



# 季節予報の 産業での利活用

～季節予報を産業に使ってみませんか?～



 **気象庁**  
Japan Meteorological Agency

連絡先

気象庁 気候情報課

climate-risk@met.kishou.go.jp

TEL 03-3212-8341(代表) FAX 03-6689-2917

# 季節予報の紹介



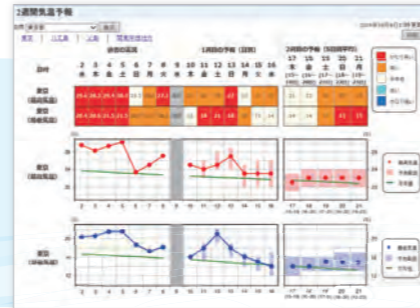
毎日の気温、天候によって人々の行動は左右される。  
1週間より先の予報があれば、早めの対策が可能かもしれない。

季節予報には、2週間気温予報や1か月予報、3か月予報、  
暖・寒候期予報があります。



2週間気温予報では、2週間先までの地点ごとの  
最高気温・最低気温を毎日予報しています。  
※5日間平均値を使用しています。

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/twoweek/>



# 季節予報の活用

季節予報を使うことで、気候の悪い影響を軽減し、  
良い影響を利用すること(気候リスク管理)ができます。



チェックポイント

詳細は気候リスクポータルサイトへ

産業データと気象データの関係、各産業での調査結果、  
活用例を掲載しています。  
過去の観測や予測データのダウンロードも可能です。

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/risk/index.html>



## 清涼飲料業界の活用例

### 気候リスクの認識と評価

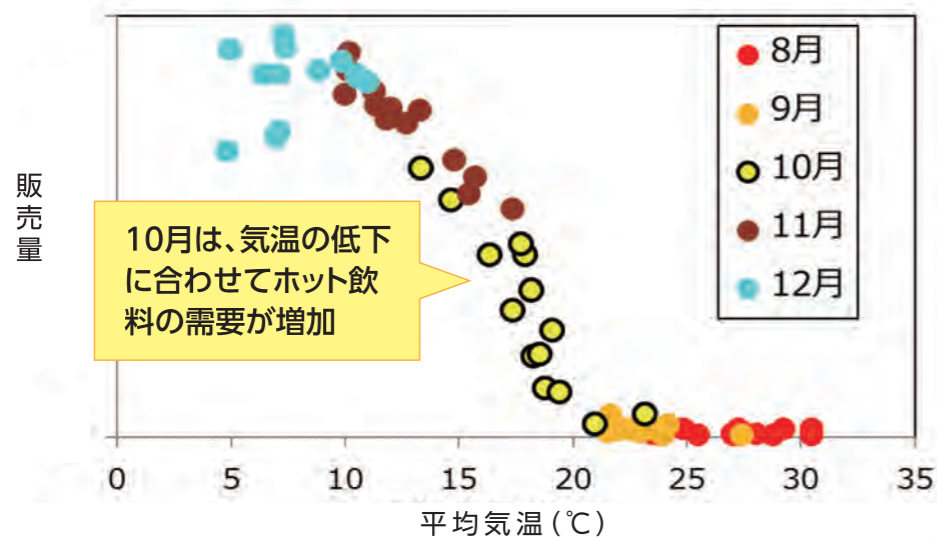
～飲料と気温の関係～

気象データを利用した  
業界の声

自動販売機における清涼飲料の販売数と気温の変化を調べたところ、  
相関係数が0.9を超えるなど定量的に気温との関係がわかった。  
この結果に対して、販売数の変動が大きい時期にビジネスチャンスがあるのではないか。



コーヒー飲料等(ホット)の販売数と気温の関係



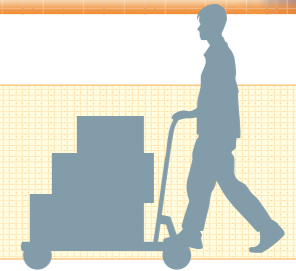
東京の平均気温と都内の屋外自販機でのコーヒー飲料等(ホット)販売数の散布図  
横軸は7日間平均気温(°C)、縦軸は7日間合計の販売数を示す(期間は2014年～2016年)。  
※「コーヒー飲料等」は、清涼飲料生産量統計資料による分類。

### 対応

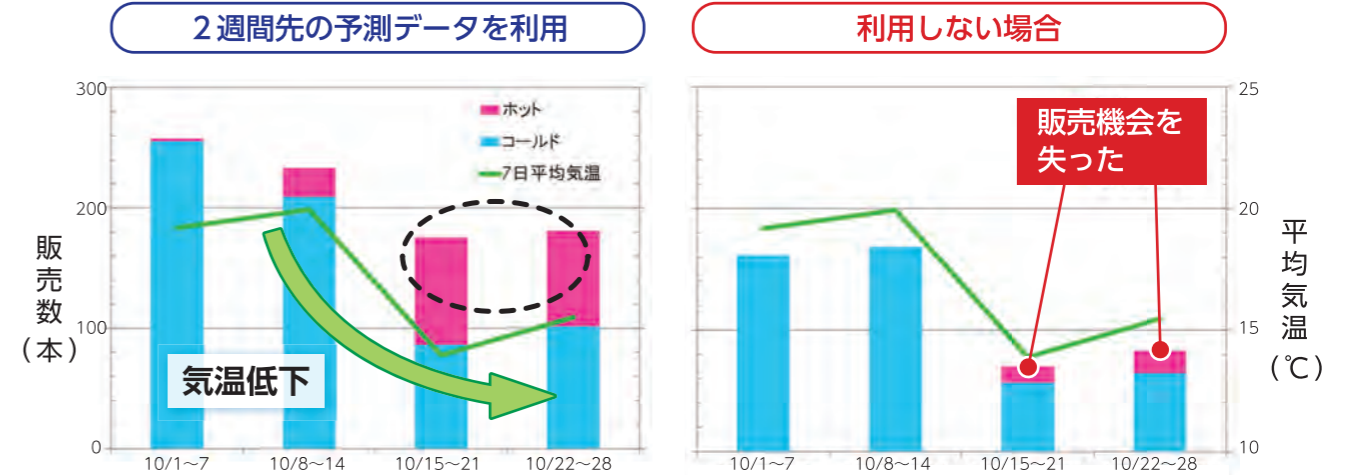
～2週間先の予測を使った対応策～

予測データを利用した  
業界の声

気温が急激に低くなった2017年10月第3週以降の販売数は、  
コールド飲料が大きく減少し、ホット飲料が増加した。  
予測データを活用することにより販売機会を捉えることができそうだ。



コーヒー飲料等の販売数と気温の推移(2017年10月)



東京の気温の推移と都内の屋外自販機でのコーヒー飲料等の販売数  
左図は10/17までにコールドからホットに切り替えた15台の平均、右図は10/18以降に切り替えた16台平均。  
棒グラフ(左縦軸)は自販機1台あたりの7日間合計販売数(本)、折れ線グラフ(右縦軸)は7日間平均気温(°C)、横軸は日付を示す。  
棒グラフのうち青はコールド飲料、赤はホット飲料。